

No.111

公民館だより

平成12年10月

宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

由良川河口今昔

公民館長 酒田 治

久し振りに早く、目が覚めたので河口に出る。昇り始めた朝日が、山陰から半分ほど顔を出したところである。

由良川の水面はその朝日を受け、キラキラと輝き、一四六キロの旅を終え、やっと由良川河口に着いた水達。後はどこへ流れて行くのか。

他方、由良岳も朝日が、少しずつ少しずつ、やわらかく包んで行く。

鉄橋を上り列車が朝日を受けて、ガタゴトと去って行く。

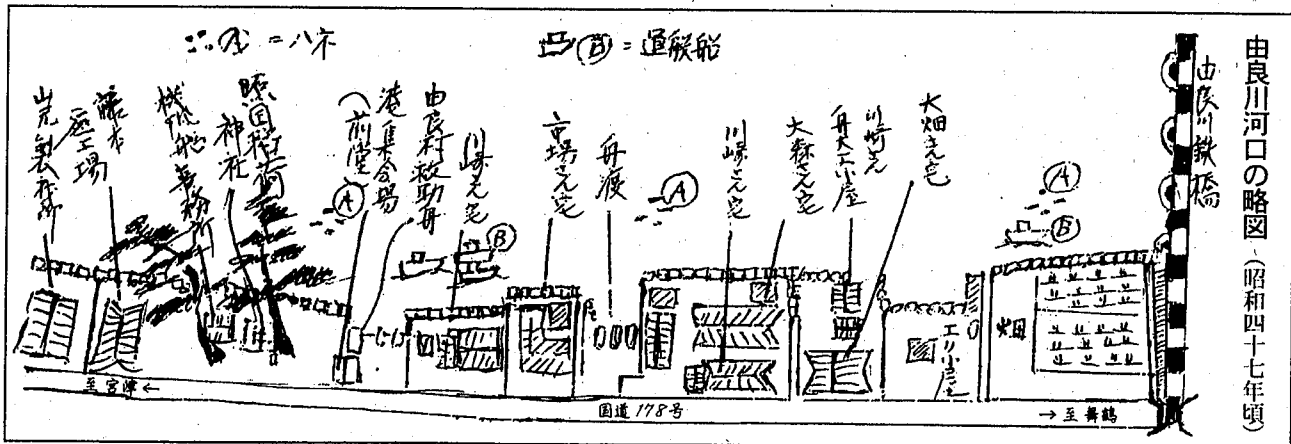
日本海には、五、六隻の漁船が東へ北へと移動し、遙か沖に大島、小島が浮かぶ。

風も余り無く、空気も澄んだ朝、護岸の道を更に歩む。

草をかき分け鉄橋の上に立つ。久し振りだ！懐かしさが蘇る。

青年の頃よく渡った鉄橋、通路の所どころ修理がされていない箇所があるが、今は通路でないので致し方がない。

昭和二十八年九月の台風十三号による大洪水をまともに受け、その後も度々の洪水に遭いながらも八十年近く、今も由良川にドスンと腰を下ろし、昔のままの元気な姿で頑張っている鉄橋、由良の風物詩の一ページではないだろうか。



由良川河口の略図（昭和四十七年頃）

- 一、田、畑の養魚場となる
 - 二、土地分譲住宅四棟建つ。
 - 三、エリ小屋護岸工事で埋立
 - 四、由良川河口の高潮護岸工事で埋立
 - 五、照国稲荷神社と山元製材所
 - 六、機帆船組合昭和五十八年頃解散
 - 七、由良川も、ここ数年洪水もな
- く平和に、時が流れているが、何時、どこで、災害が起きるか分からない。どうか大きく荒れることなくこのままの姿でいてほしい。

行事報告

主事 飯澤 登志朗

◎六月四日(日)

第十二回宮津市地区対抗

駅伝競走大会

南・北コース交互開催となつて初めてのKTR丹後由良駅をスタートして開催されました。

五月八日から練習を開始し、連日夕方と夜間の二回に分けて重ねられた厳しく、そして熱心な練習風景でした。

五月二十九日には、コース試走、そして夜には結団式を行い、いよいよ大会に向けてチーム代表でもある自治連合会長から選手に対し激励と長期間に亘る練習に感謝のあいさつがあり大会当日を迎えました。

スタートして一区から先行逃げきりを図っていましたが健闘むなしく結果は四位に終わりました。

しかし由良チームは随所に見せ場を作り、その頑張りには応援する市民から高く評価されたものと確信しています。

選手の皆様及びご家族の皆様のご協力に深く感謝いたしますとともに応援していただきました地区民の皆さんにお礼を申し上げます。

なお、選手団及び各表彰を受彰された方々は次の通りです。

- 「小学生」
 - 山本 界成 山田 悠貴
 - 船野 大 岡田 朋子
 - 大畑 麻里 由利加奈子
- 「中学・高校生」
 - 田中 祐介 長尾 明廣
 - 岸田 祐佳
- 「一般」
 - 奥田 政郎 中西 泰之
 - 新宮 鶴雄 津田 一

- 中西 一就 千坂 幸雄
 - 田中 昭義 田中 衣里
 - 岸田八重子 藤本 淳
- (以上順不同)

「表彰受賞者」

- 五回以上出場 中西 一就
- 田中 衣里
- 森田 耕二
- 十回以上出場 千坂 幸雄
- 区間一位 奥田 政郎

◎六月十一日(土)

女子ファミリーバドミントン交流会

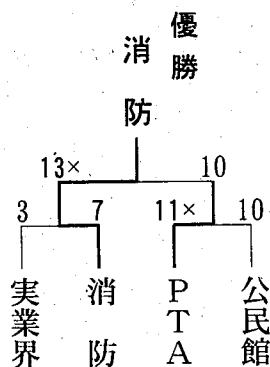
二回目の交流会であり今回は特に子供づれでの参加が多く見られました。当日はコート別の子供チーム、家族チーム、大人チームに分けて楽しい交流会が開催出来ました。老若男女が楽しめるスポーツであり、更に普及を図っていきます。

◎六月十二日(日)

団体ソフトボール大会

地区内の団体の親睦を目的と

して各団体のご協力により盛大に開催されました。成績は次の通りです。



◎六月二十四日(土)

子ども地引網体験活動

この体験は平成十四年度から実施される完全学校週五日制に向けて、土曜日や日曜日等休日、多彩な地域活動の機会と場を提供し、子どもたちが魅力的な体験活動を出来るように全国各地で取り組まれ、宮津市教育委員会の要請と由良子供会連絡協議会の協力により実施しました。

当日は早朝から漁業関係者の指導のもと、約一〇〇名の親子づれの参加で実施しましたが天候が網引きには不向きで捕れた

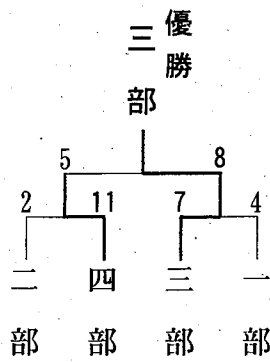
魚は少々でしたが子どもたちは初めての体験で、銀鱗を輝かせて飛び跳ねる魚に歓声を上げていました。

漁業の最盛期を知る人々にとつて現状は淋しいものがありますが子どもたちは体験だけではなく過去の生活や産業を知る良い機会であつたと考えています。

◎八月十三日(日)

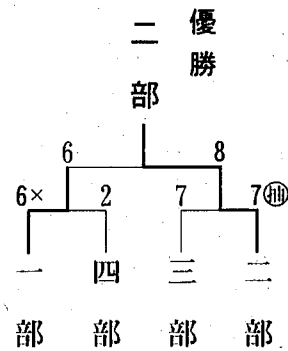
四部对抗球技大会

例年は八月十四日に開催していましたが球技大会を日曜日開催に変更して開催しました。成績は次の通りです



「一般ソフトボール」

「青年野球」



今年もまた熱戦の連続で大会を盛り上げてくれました。

特に、野球で優勝された二部は十年振りの優勝に加えて昨年の大会で最終回逆転サヨナラ負けで優勝から見放された悔しい思い出があり、見事雪辱された活躍に盛大な拍手を送りたいと思います。

◎八月二十日(日)

盆踊り大会

今年も、子供地蔵盆が、世話人会のご努力で盛会に開催されましたが、公民館もその要請を受けて当日の二部として会場を由良の里センターから松原寺境内に移し開催しました。

子供地蔵盆の様子については世話人の岡田 武さんの寄稿に譲りまして二部の盆踊りについて報告します。

一部の地蔵盆の熱気をそのまま引き継ぎ子どもたちを中心として由良小唄から踊りの輪が広がりました。アンパンマン音頭や宮津節、そして昔懐かしッえへい踊り”まで、その頃には参道には灯ろうが灯り各バザーも品切れが続出する盛況でした。

地域の人たちが子どもたちとふれあいを持ち、あいさつを交わすことが子どもたちの健全な成長に継がれるものであり、この地蔵盆がいつまでも続くよう公民館も一緒に活動していきたいと考えています。

◎八月二十四日～二十七日

「庄内由良訪問」

この項につきましては参加された方々から種々ご寄稿をいただきました。

また、各新聞に交流の様子が

掲載されていますので紹介し、報告に替えます。



由良のみなさんありがとう

六年 岡田 朋子

駅伝の練習は、みんなと仲良

く楽しくできたと思う。里セ
ンターで、自分の走る区を発表さ
れて「本気で?!」と思った。な
ぜなら、一区なのだ。私は、プ
レッシュャーや本番に弱いから心
配ばかりしていた。

そして、いよいよ当日。里セ
ンターに集まり、バスで行くと
思っていたけど、どうやら私は
一区で由良を走るから、開会式
に行かなくていいそうだ。みん
なを見送ったあと、一人でどぶ
そうじのなかを帰るのは、なん
か気がぬけた感じだった。

家に帰って、残りの時間を待つ
ている間、母に10回ほど、

「ああ、きんちようしてきた。」
と言っていた。そしていよいよ
家を出る時間。母もついて来て
くれたので心強かった。少し

アップすると、

「集まって下さいい。」
という声がきこえたので、きん
ちようしながら行った。

さあいよいよ、一列に並び、
「位置について、ドン!!」

スタートしたら、ふつと何か
が飛んでいったような感じで軽
くなつた。あとは、「もう走る
しかない。」と思つて走つてい
た。「ちよつとつかれたな。」
と思ひ始めたころ、由良のみな
さんの声えんが聞こえてきた。
その声えんにはげまされがなば
れた。

ゴール直前でぬかされちゃつ
たのが残念だったけど、力いっ
ぱいがなばれた。

本当に、あたたかい声えん
ありがとうございました。

がんばった駅伝大会

五年 船野 大

はじめにウォーミングアップを
しました。

すぐくあつかったです。
おく田さんが、

「ぜつたい一番でくる。」

と、言つたけどほんとうに一番
で来ておどろきました。

二位の人と差をつけてくれて、
とても走りやすかったです。

だんだんえらくなつてきたけど
いろいろな人がおうえんしてく
れて力が出たような気がしまし
た。

なんとか、つぎの田中くんにと
すきをわたしました。

けつかをまつているとき、田中
くんが、帰つてきました。

田中くんから

「ゴメンぬかれた。」

と聞いて、ぼくは、

「ぼくがもつとはやく走つてい

ればもつと走りやすかつただろ
うなあ。」

と思ひました。

さい後の人を、おうえんしまし
た。

由良は四位でした。

くかん賞がとりたかつたけどだ
めでした。

由良では、おく田さんだけでし
た。

みんながんばつたのでよかつた
です。

帰つたら、みんなでごはんを食
べました。

つかれたあとのごはんは、おい
しかったです。

来年もがんばりたいです。



がんばった駅伝大会

六年 大畑 麻里

わたしは、二回目の駅伝です。前のときよりはあまりきんちょうしませんでした。

今年は、由良からスタートでした。

わたしは、開会式が行われる宮津にむかうバスの中で練習のときのことをおもいだしていました。とてもえらくてやりたくないなと思ったりしたけどやってきましたよ。

そしてつきました。だんだんきんちょうしてきます。開会式がおわりました。時間がすぎていき私は走る場所へ行きました。今年はいっしょに由利さんもいてちよつときがらくでした。私たちは、グラウンドでウォーミングアップをして、くるのをまっています。そしてきました。四位です。前の人とのさはあまりあ

がんばった駅伝大会

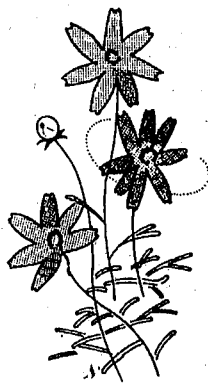
六年 山本 界成

6月4日の朝、いつもより早く目がさめた。

昨日はきんちょうして、なかなかむれなかった。しかし今日は、毎日練習をしてきた成果をだすときだ。今日の日のためにグラウンドを何周も夜おそくまで走って練習してきた、だから「がんばって走るぞ。」と決心した。

ぼくが走る場所は、十一区で千九百メートル。待っている間は、思ったほどきんちょうしなかった。でも、トップの人がたすきをわたすのを見ると急にきんちょうしてきた。

そして、「ゼッケン6番由良」と言われて、いよいよぼくの出番がやってきた。応援している人達の歓声が聞こえてきた。ぼくは、その応援にこたえる



ために頑張つて走つた。しばらくすると、横腹が痛くなってきた。「うっやばい。どうしよう。」と、ど息があらくなってきた。でも、「頑張るぞ」思いながら走り続けた。最終カーブにかかろうとした時、「もう少し。」という声が聞こえた。ぼくは、すぐにたすきをとって最後の力を全部だしきり全力で走つた。しかし、あと少しのところで前の選手をぬきかえせなかった。すごくくやしかった。でも、これまで練習してきた成果が出せたと思うし、この駅伝大会に出て本当に良かったです。

四位だった駅伝大会

六年 山田 悠貴

ぼくは、走るのが好きです。練習があることを知って、練習に行きました。

長きよりは、とてもえらくて大変です。けれど、「あともう少しだ。」とか、「友だちもがんばっているから、ぼくもがんばるぞ。」などを思っていると走れます。

ぼくは、補欠の選手で駅伝大会に出ました。

ぼくは、とてもドキドキしてとても、きんちようしていました。けれどみんなと話したり、遊んだりしているうちにリラックスできてきました。

ぼくは、補欠なので、走らなくていいので、十一区の山本界成君の応援をしました。宮津の友だちと遊びながら、界成君をリラックスさせました。

十区の人が、三位ではいつて

きて、界成君が走っていききました。

バスで帰ると、もう結果は、わかつていました。結果は、四位でした。

三位までに入らなかったのが、くやしかったし、走れなかったのが、くやしかったです。

ぼくは、補欠に選ばれたけれどよかったです。また、練習に行つて、補欠でもいいからまた、選ばれたいです。



あつという間の駅伝大会

六年 由利 加奈子

五月半ばぐらいから、駅伝大会の練習に行っていました。五時からの練習は、習い事があつてなかなか行けませんでした。

でも、と中から五時からの練習が無くなったので七時半から大人の人たちといっしょに練習しました。五時からの練習よりえらかかったです。行ける日は毎日行きました。かんじんな十周のタイムを計る日、疲れが出たのか体調をくずしてしまったのでその日は休みました。六月一日、里センターで結団式がありました。私は、呼ばれていたので行きました。私は、補欠でした。でも、選ばれてうれしかったです。

そして、当日ドキドキして早く目がさめました。八時に、里センターに集まってバスに乗って

市民体育館に行きました。バスの中でもドキドキしていました。着いて、開会式が終わって麻里ちゃんと上宮津小に行きました。二人グラウンドを五周走りました。グラウンドを走っている時「今何番だろう。」と気になりました。そして、麻里ちゃんにタスキを渡す中西さんが見えてきました。そして、タスキを渡して、麻里ちゃんが走り出しました。バスに乗って迎えに行く時も、「今、どこへんかな」と思いつながら乗っていました。結果は、四位でした。練習の間は、とても長く感じたけれど終わってみるとあつという間でした。今回、私はとても貴重な体験ができたと思っています。いい思い出が出来ました。

「子供地藏盆」の縁

岡田 武

子供の頃の思い出、楽しかった記憶、懐かしい場所 e t c.

記憶を辿ってみても不活性化した脳みそでは臙げな記憶しか残っていません。それでも浜で遊んだ、寺で遊んだ、河で泳いだ、山へ採りに行った、場所の記憶はあり、そこへ行けば不思議と懐かしさを覚えます。生まれて50年、親になつて20数年が経とうとしております。由良で育ち、大きくなった私達ですが、地区に、周りに世話になつて大きくなつただけで、地区に寄与したり世話したことはさほどありません。

そんな思いが川風にのつて寺に入ったかどうか、ある日、松原寺住職から「寺を開放するか、何かやってみてはどうか」「分かりました。その時は又、

相談にのつてください」思わず二つ返事で受けていました。調子のよいこと、安請け合いでは人後に落ちませんがその時点で何の思惑・算段もありません。

あれやこれやで悶々と過ごすうち、遂に地金が出てしまいました。「駄目元や、行つたれ」

案に相違してというか、案ずるより生むが安しというか小学生のいる同級生に声を掛けると「分かった。やるか」でした。

そこから先は、人の輪・知恵の輪・文珠の輪になりました。ワイワイガヤガヤあだこどうだと何度も打合せを重ね、総勢十二名の世話人とその嫁達は存分にそれぞれのキャラクターを生かし、出し物を作ってくれました。子供達は子供達で、それ以上に頑張ってくれました。

ポスターの作成、紙芝居の考案・作成、張り子地藏の作成。

面白かったのは張り子地藏を作った日の事でした。午前中の予定でしたが、出来なくて「今日中につくらなあかんけど、早く作れたら泳ぎに連れていつたるでな！」やつたあ！昼から水着はいてきてもええんやな」その日は六年生の担任になつた気分でした。(大槻先生すみません！)

盆が近づくにつれ世話人メンバーは次第に不安と焦りが高まってきました。寄付のお願いは終わつたか？招待状は？材料の手配は等々。そんな中、八月十二日昼前でした。「たけしー！提灯出来たで置くとこ用意しとけー！」田中工務店の昭義つさんの声でした。和尚さんと奥さんと思わず見とれた大型の提灯。みんな動いてくれる、みんなやってくれてる。木の香に包まれた提灯を運びながら言いました。「昭義つさん、おおきに」

八月十九日午前八時。公民館

のメンバー、世話人達が準備に集まって来ました。首のタオルで汗をふき、櫓の組み立て・ビールケースの搬入・竹きり・バザー品の値段付け、e t c.

通る人、出会う人「ご苦労さん。頑張つてネ」「おおきに」べとつくシャツに風が通りました。準備終了！

和尚さんとの話から五十余日。一体、どれだけの人と出会つただろうか、どれだけの人に世話になつただろうか。屈託のない笑い顔にどれだけ救われただろうか。ビールが旨い。

八月二十日午後二時五分。「それでは子供地藏盆を開催します。今日は君達が……」

お地藏さんの「縁」に感謝します。それから、お地藏さん！子供たちの作った「よだれ掛け」来年まで大事に使ってくださいね！お世話になつた方、お供え、寄付を頂いた方、有り難うございました。

歴史を創る

川崎 利晴

小学校長との会話のはづみに「由良には、地藏盆がありませぬね」の言葉に、一瞬、絶句した。

そういえば、他所の知人が語る、幼少期の思い出の片隅から、地藏盆の楽しかった思い出のヒトコマくを、よく聞かされたものである。

私達、子供心の思い出は、海水浴客がもたらす、華やかな都会センスとの交わり、夜の花火、夜祭り等、風物詩のみで子供が主役となる、地藏盆が欠落していたとは、迂闊であつた。

しかし、海水浴客の受け入れで、その余裕が無かつたとも考えられる。

それが、最近では、民宿客が減り、幾分かゆとりを生み出し、親子の絆に、見直しの機運が熟し

た傾向が、見聞きされる最中。

八月二十日に向かつて地藏盆実行委員会が発足した、と聞き、新しい試みが芽生えたかな、と、興味津々の思いが募る。

子供会、公民館、婦人会から、矢継ぎ早に回覧が届き、関係者の懸命の舞台裏が推測された。

二十日は、当家でも、親子共々、早朝から、忙しそうに、又楽しそうに、食事が手に着かない様子。「おじいさん、夜来てな」の呼びかけに、嬉しくもあり、面映ゆくて、生返事で送り出す。

加齢とともに出不精になった私も、初めてのイベントに心を弾ませながら、午後八時、松原寺に向かう。

途中で、余韻を惜しむ、幾組かの家族連れと挨拶を交わす。

山門から入るのが気が引けて、駐車場入口から入ると、混雑した、人いきれの中から、元気な声で「もう仕入れた品物は、全部売り切れや」と嬉しそうな親子の会話と、店じまいの最中であつた。

期待したビールは売り切れかと、ガツカリすると、飲み物はまだある、と指差す、見覚えのある中学生が、不慣れな手付きで応対しているのが、微笑ましく映る。

今が最高潮の時刻らしい、境内では、紅白の幔幕の櫓を中心に、盆踊りの最中で、大勢の輪が出来ている。ひときわ目に付くのが、若い娘さんたちの、紺のゆかたの後姿、帯の結び目に、ほんのりとした色香が漂う、この一団は小学校六年生とのこと、「ビックリするのはまだ早い、山門に行けば判る」と教えてくれる。成程、山門の両側から、道路に向けて、灯笼が、ピッシリと流れるように並んでおり、蠟燭から浮出る絵画、文

字は、それぞれ趣向を凝らしたもので、特に般若心経の墨跡が印象に残る。このアイデアの素晴らしさに舌を巻く。

次に本堂に向かう。張りぼての大きな等身大のお地藏さん二体、思わず笑みが溢れる。その前には、真新しい、大きな賽銭箱が置いてあり、浄財の欲がチラリと見える。神妙に子供の幸せを祈り、本堂に目を移す。

実行委員の方々が、住職、学校長、を囲み、談笑中の満足そうな顔、顔、顔。境内を振り返ると、踊り手の中から、「そろそろ時間では」の声を聞く、「和尚さんと、九時まで約束してあるのでユックリしたらよい」の言傳に、歓声があがるのを横目にして、名残りを惜しみながら辞した。

帰宅してからも、歴史を創るとはこんな事か。と興奮して仲々寝付かれなかつた。

四部対抗球技大会(野球)に参加して

竹田 茂

今夏の炎暑もようやく終わり、やっと秋らしい季節となつてまいりました。由良公民館主催によるお盆休み恒例の野球大会が今年は8月13日に、由良小学校グラウンドで行われました。

球技大会も、昭和二十五年頃よりの開催と随分長く続いているものだと感心させられます。

子供の頃から野球に明け暮れていた野球小僧の私にとって「青年の野球」は、憧れであり、いつかは出場してみたいと思いつながら、炎天下の中、観戦していた記憶が残っております。

この「青年の野球」に高校一年の時に初めて出場して以来、今回までに恐らく30回以上は出場したことになると思います。

35年の間にルールは当然変わっておりますが、選手の様子

や応援の風景は随分変わったように感じるのは、私一人ではないと思います。先ず選手の服装ですが、ユニホームを着て出場している選手が年々少なくなつてきており、ここ数年は帽子すら被らない選手が多数を占めるようになっております。又、茶髪、長髪、チョンマゲ等の選手も多く、形や服装に拘束されずに、自由に楽しく生きるというライフスタイルが、野球にも反映されてきているように感じます。

又、勝負にも年々淡泊になつてきているように感じます。以前は文字どおり地区対抗戦でしたし、怪我をするほどのハッスルプレーを多く見かけましたが、最近はそのようではなく、親睦第一に変わつてきたように思います。

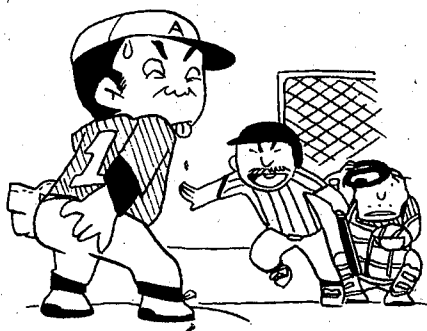
次に応援風景も随分変わりました。以前は、いわゆる草野球ファンが多く観戦に来ていたと思います。試合中に、ジュース、氷水等の差し入れがあり、地区あげての応援体制ができていたように思います。さらに、お盆で帰省している人が多く顔を出してくれたように感じましたが、そういう人が年々少なくなつてきているように感じます。

応援団が年々少なくなつてくるとは淋しいことですので、今後は、由良の「夏の風物詩」として残してゆくためにも、一人でも多くの人に観戦してもらえようになりたいものです。

ところで試合の結果について簡単に報告します。優勝は宮本チーム、実に10年ぶりのことです。二部対三部の一回戦では、7点差を最終回で追いついた宮本チームが、同点時間切れの結果、9人ずつによる「じゃいけん」となりました。宮本チームは、最初の4人が負け、絶対絶命のピンチ

から、5人が連続して勝ち奇跡の逆転勝利となりました。私も長く野球をやっておりますが、こんな結果は初めてであります。きつと楽しい思い出の一つとなることでしょう。

決勝戦は、宮本チームの打線が爆発し圧勝で優勝を飾りました。年に一度の野球、年に一度の出会い、夏が来るたびに小学校のグラウンドで繰り広げられる由良の住民による小さなドラマが今後、も続くことを願つて止みません。



白球を追って

〳 四部対抗球技大会 〵

中西 一 就

八月十三日、恒例の四部対抗球技大会が行われました。五年ほど前に当時の役員さんから声をかけていただき、以来毎年ソフトボールの部に参加しています。年によつては立っているだけでも汗が滴り落ちる炎天下での大会ですが、今年は曇天で過ごしやすい気候に恵まれ、気持ちのよい汗を流すことができました。

この大会は、日頃道で出会った時に挨拶をする程度のことしかできない方たちや、懐かしい帰省選手の方たちと親しくお話できる、実に楽しい大会です。年齢差を超え、一つのボールを追いかける仲間だからこそ話も弾み、親睦も深まるのだと思います。

さて、試合の方ですが、わが

三部は、一回戦・決勝戦ともに勝ち、優勝することができました。勝つことだけを目標にしているわけではありませんが、勝利の輪の中に入れることは、やはりうれしいものです。

「上げたらあかん。転がせ転がせ。」今のエラー 帳面に付けていたでな。」などと厳しい言葉(?)を笑顔でかけあえるところにこの大会の温かさ、よさがあると思います。また、決して好プレーばかりの試合ではありませんが、一つ一つの全力プレーには頭が下がります。私自身も、ソフトボールが好きという程度のレベルなので、打つにしても守るにしても冷や冷やの連続です。しかし、一生懸命プレーするようにいつも心掛けています。

絶好のスポーツ日和に恵まれ

たこと、大きなケガなく無事大会を終えることができたこと、大変良かったと思います。私はいえ、日頃少しは体を動かしているつもりでしたが、数日ほど筋肉痛でつらい思いをしました。しかし、この痛みも一生懸命プレーをした証しとして、心地好さも同時に感じていました。皆さんは、いかがだったでしょうか。

来年の大会は、みなさん一つずつ年をとって参加されるわけですが、今年同様のハッスルプレー、ハッスル発言、元気の出る応援を楽しみにしています。「もう年やし、来年は引退させてもらおうわ。」「もう少し若い人は、おらかなあ。」まあ、そうおっしゃらずに、来年も元気に参加していただきたいと思います。私も大会成功に向けて、何らかの形で微力ながらお手伝いをしたいと思います。



旅は気儘に

パートⅡ

丹後由良駅

日本を出てから十年。久し振りの丹後を再発見しようと、プ
ラリ一人旅をしています。今日
の目的は「ハクレイ酒造」お酒
のルーツや仕込みの説明を受
け、六種類の試飲をさせて頂き
ポーとイイ気分です。日本に居
た頃には立ち寄りもしなかった
町や、関心を持たなかった歴史
等も、外から見ることで、あら
ためて良さを感じています。

この後、宮津へ行き、カト
リック教会へ行こうと思いま
す。

パリのノートルダムや、ロー
マのバチカンもいいけどひっそ
りたたずむ日本の古い教会も今
の私にやさしく微笑んでくれそ
うです。もうしばらく日本にい
る間に、多くの発見をしたいと
思います。 EUROPE
ベルギー在住 N・O

最近とーってもイヤな事が
あつて海を見に来ました。日本
海の海はメツチャ広くて、つら
い事も忘れられる様な気がしま
した♡。でも、一人で来るの
は、ちよつと淋しいかなあ。
とつても待ち時間が長いので書
いています。山科区のうさぎ
ちゃんヨリ

今年は二回目の海でしたのし
かった。丹後由良の海はキレイだ
からすきなのです。これからもキ
レイな海を守っていこうね。

ドジってしまった。東舞鶴へ行
くはずが、乗るかえを、間違えて
しまい、今列車を待っている所で
す。全く何をしてるんやら……
今度は海水浴でこの丹後由良の
駅に降りたいです。 8/12

平成十二年 八月二十四日
晴れ ○八時五五分
昨日、初めてこの丹後由良に來
ました、海と山いい所だ。
昨日、天橋立にいつて、いつぱ
い歩いて汗をかいて東京では乗
ることの出来ない一輛の電車、
もうおどろき。もつと時間があ
れば、山に登つて海に入つての
んびりしたい。都会では、味わ
えない心の休憩時間が、ゆつく
りと流れている。人にはこんな
時間も必要だ。この後、京都に
行くけど、こんな気持にはなれ
ないだろう。来年はもつと時間
をつくつて、ゆつくりと山や海
を満喫したいなあ。 千葉県
鈴木信子。 小川雄司 電車一
輛で、乗る人が多いときはどう
するのかな？

東京まで帰ります。無事帰れるの
かな？まあいいか。 8/15 (火)
旅する電気屋

何処か知らない場所にいきた
いね。そんな会話から始まった私
達の旅……。都会の生活に疲れてし
まった二人行き先も決めず、ただ
ひたすら電車にのつた。窓の外の
大きな海を見て、笑顔が満ちあふ
れてきました。色々な人との出逢
いでありがたさも学ばしてくれた
旅でした。美由起、祐美二人の旅
物語。二〇〇〇年、9/3 (日)
丹後由良く

夜の浜茶屋は涼しくてくつろ
げた。すつごく楽しかった。ま
た来年もこようと思えます。
二〇〇〇年8/24

折角の休みなので家にいては
もつたいたいと思いいこまで
やつてきました。今日も天気恵
まれてとても暑い!! これから
天橋立へ寄つてから小浜經由で
最高にいい海でした。有難う!!
羽瀨芳彦、節子、郁子、山田治子。
午前十時十五分。
(待合室に残された旅のメッセージを
紹介しました。)

短歌

山口美子

遠雷に心はずませ野良に来て草燃やしつつ雨待つ吾は

夏椿高き梢より咲き初めて天下りくる水無月抒情

藤本史代

みずからを慰めたしと受話器とれば留守電の声うつろにひびく

木隠れに花やまぼうし夏椿水無月ま白き夢ときながす

友のくれしワインの香りやわらかくグラスに浮かぶ笑顔なつかし

うち靡く花穂の白は鮮明に傾^{なだり}へ誘う丘虎の尾は

山田よしの

坂本妙子

橋立の空一面の夕やけに雲の動きを眺めてたのし

庭隅に酷暑を避けてひっそりとみずひきぐさは紅の小花を

二百本のたいまつ^{たいまつ}の火に照らされて松の並木はくつきり浮かぶ

木洩れ日の移りゆく影見つめつつ恙無くして生き抜く日々や

夕闇の白き砂浜にはしゃぐ子ら行きつ戻りつ繰り返す遊^{あそび}

賑わいの去りし渚に小波は今日も光りつつ夕暮れていく

大森 萬喜子

くちなしの驕りし枝を剪定しスカツと明るく過ぎゆく夏日

地蔵盆の子らと興じて声たてて金魚をすくうわれ七十五歳

土あるを喜びとして春秋に作る野菜の旬の彩り

大森 美智子

友だちとボート漕ぎいるわが写真われにもありし遠き夏の日

渋滞の雨の奈具路に暮れ迫りテールランプの赤く流るる

だみ声の遊覧案内も面白くマングローブの林続けり

中西 夏江

いずこにも秋のいろ発つ雨の朝水平線は低くかすみ

遠霞む海の果にも寄り添いてうみどりは秋の羽根広げいん

来し秋の波上に蒼き夢いくつ奔らせてきみよ 海風となれ



山形県

庄内由良を訪問して

訪問団長 大森 秀朗

庄内由良との交流の始まりは昭和五十三年夏、庄内由良の文化財愛好会の会長である佐藤儀助氏が、蜂子皇子の伝説をたどられ単身丹後の由良を訪ねられたことで始まりました。

昭和五十五年には丹後由良の「歴史をさぐる会」代表五名が庄内由良を訪問して情報交流した。

昭和五十七年には庄内由良自治会長と職員二名が当地区に立ち寄り、両地区の交流機運が一層高まりました。

昭和六十年には庄内由良出身日本ヨット連盟理事の佐藤精知夫氏が仲介で友好関係の話が進み、「丹後由良訪問団」が結成されました。

十一月に自治会長を団長として十六名が当地に見えられ、友好の浜の盟約が締結「庄内由良・丹

後由良友好の浜」が宣言され、鶴岡市と宮津市の両市長によりメッセージの交換がなされ本格的に交流が始まりました。

平成元年から平成三年までは両由良小学校間で児童作品交換などが実施されてきました。

平成四年には、庄内由良開村千四百年を次年に控え、学校関係者児童四名、自治会、PTA会長等が当地区を訪れ交流。

翌年、平成五年には庄内由良開村千四百年を記念し、丹後由良が招待を受け、児童四名を含め十九名が庄内由良を訪問しました。

平成八年には、庄内由良から児童六名を含む二十一名の訪問団が当地区を訪問、学校と地区交流が実施されました。

この様な歴史的経過の中で今回「庄内由良訪問団」を児童四名

を含む十七名で結成して、八月二十四日午後六時二十九分に多くの皆さんに見送られ出発した。

敦賀では特急寝台に乗換えそれぞれ、就寝体制に入ったが、児童達も初めての寝台車で興奮ぎみであったが、午後十一時に全員就寝に入り鶴岡へ向かう。

午前五時三十分ごろには、殆どの人が起床し庄内平野の田園風景の雄大さに歓声があがりめざめた。

午前六時三十三分に鶴岡駅に到着、改札口で地元自治会長さんをはじめ、早朝にも関わらず七名の皆さんに出迎えを受け感動の思いで挨拶する言葉が出ない感じがした。

庄内由良「国民宿舎由良荘」へバスで案内されたが、高台にあり、由良の浜や地区内、また日本海が一望でき丹後由良荘に在る錯覚を感じた。

朝食後、庄内由良小学校へ向かう、学校は高台に改築移転され、建物は当地区と似た規模で

ある、体育館は改修中でグラウンドに交流準備がされており我々一行は学校関係、地区代表者の大きな拍手で迎えられるなか席に案内された。

庄内由良小学校長、児童会長の挨拶後校歌と五・六年生によるスクールバンドによる歓迎演奏を受けた。(因みに楽器が地区民の寄贈とのこと)

丹後由良訪問団として挨拶後校長、児童が自己紹介、ビデオレターで丹後由良と学校を紹介し土産の交換を行い一部を終了した。

学校関係者以外は鶴岡市役所で教育長、次長等と庄内由良関係役員同席の中、徳田市長のメッセージを代読し挨拶後に歓迎挨拶を受け懇談後交流を終えた。

午後より学校関係者と合流し「皇子丸」(自治会長オーナー)に乗船庄内由良海岸を散策、蜂子皇子が丹後由良を船出して、漂流の末八乙女が浦で乙女踊りに魅せられ上陸したと伝えられて

いるように、そそり立つ断崖絶壁と奇岩洞窟がつづく姿は、神秘的に感じると共に伝説を実感した。

下船後、白山島にある白山神社を参拝したが、神社の管理が徹底されていることに感心した。

又、宿舎から見た海は左に白山島（桃島？）正面は水平線手前は砂浜でどう見ても当地区の浜を高台から見ただった。

ただ一つの違いは夕日が海に落ち沈むことでその雄大な光景はだれもがカメラを向ける。

夜の歓迎会には神林会長ほか地元関係団体の多くの皆さんが同席され、八乙女の舞保存会の皆さんによる地元の芸能が披露されるなどその歓迎に対して訪問団一同ただく感銘いたしました。

翌日は、蜂子皇子が開山した出羽三山の月山（八合目中之宮）と羽黒山への案内を受け蜂子皇子の墓、出羽神社参拝とお祓いを受けて鐘楼堂の大鐘（重文）、

歴史博物館を見学した。

館内には鏡池出土古鏡、青銅灯籠棹の重文のほか、銅製狗犬、太刀、平安から江戸にかけての多くの仏像が展示されており時代をさかのぼる感がした。

雨天のためコースを変更して善寶寺を見学したが、五重塔、本殿の立派な彫刻と建物など鶴岡市の数多い文化財を肌で触れることが出来た。

今回の庄内由良と丹後由良との交流で双方の共通点を認識し又、滞在中における地元の皆さんの人情味厚い人柄に接し、交流使節団としての目的が達成できた。

庄内由良の今後の発展と交流の継続を願い帰途についた。

最後に今回の丹後由良訪問団に対して連日に渡り自治会長さんを始め、多くの庄内由良の皆さんにお世話になり、帰途の際には鶴岡駅までの見送りに預かりましたことを心からお礼を申し上げます。

庄内由良小学校との交流

由良小学校校長

水谷洋子

八月二十四日から二十八日まで

庄内由良小学校訪問が実現し、両由良地区と由良小学校の友好を深めて参りました。

それは、庄内由良と丹後由良とが一つにつながり、その絆の強さを実感する旅でもあり、また、千四百年前の蜂子皇子にまつわる伝説を想起するロマンに満ちた思い出の多い旅でもありました。

千四百年前、丹後由良を出発した蜂子皇子は、海路で何日もかかって北上し、山形県鶴岡市由良にたどりついたことでしょうが、私たちは、陸路で列車に乗り、十二時間で到着しました。

しまいました。

まずは、マイクロバスで宿泊先の国民宿舎由良荘へと向かいました。数分すると、どこまでも続く水平線の蒼い海と白砂が眼下に広がり、「由良」という名が目に入りました。夏には、丹後由良と同様に、海水浴客で賑わうそうです。「由良」の文字に出会うたびに、初めて訪れたにもかかわらず、親しさと懐かしさが胸に広がっていきました。朝食後、庄内由良小学校へ向かいました。

小学校は高台にあり、その校舎は、東西に細長く伸びた木造二階建てで、廊下は板張りでしたが、丹後由良小学校とよく似た造りでした。児童数も九十六名（本校九十四名）と本校と同じくらいの規模でした。

歓迎会は、庄内由良小学校の校歌で始まりました。「その名もゆかし八乙女の、久遠に伝う由良の浜……」と、峰子皇子が上陸した八乙女が浦や開村された由良の浜が歌詞に表されていて、ここでも丹後由良とのつながりを感じました。

青木校長先生と児童会長の温かい歓迎の言葉を受けた後、五年生によるスクールバンドが心を一つにして二曲演奏し、歓迎の思いを伝えてくれました。

丹後由良からは、大森自治連合会長、校長、小室児童会長がそれぞれ、庄内由良と丹後の由良との交流を深め、絆を強くしていきたい思いを伝えました。

児童会からは、自己紹介を兼ねてお土産の紹介をしました。由良地区と由良小学校を六年生全員が紹介したビデオレター、汐汲浜の砂と貝、四、五年生製作の作品や写真です。

最後に記念写真を交換しました。こちらからは、ちりめんの特産

というところで、錦西陣織の祇園祭の額と安寿と豆子王の紙芝居（四方校医先生作成の写真製）を贈り、庄内由良小からは、花笠人形（花笠音頭の人形）を頂きました。

歓迎式典が、このように盛大に、和やかな雰囲気のうちに進められ、両由良地域や小学校の心の通い合う交流ができ、大変嬉しく思いました。

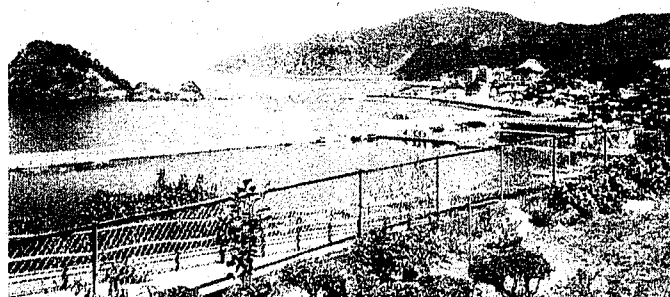
その後、校長室で一息つき、お茶うけに出された「だだちゃ豆」に舌鼓を打ちました。だだちゃ豆は枝豆で、口に含むと香ばしくて、庄内の特産物の一つです。「だだちゃ」とは、お父さんのことで、りつばだという意味なのだそうす。

六年教室では、六年生同士が方言クイズや質問コーナーで交流を楽しみました。最初は少し緊張気味だった児童も班に入っ

ないほど溶け込んでいました。鶴岡市は、学校給食の発祥地で明治二十二年に、全国で最初に給食が開始されたという歴史のある給食を試食し、庄内米をおいしくいただきました。

児童会代表は、歓迎会や交流会で、代表として精一杯務め、心と心が通じ合う機会となり、庄内由良と丹後由良との架け橋の役割を立派に果たしてくれました。これからも、庄内由良の自然や生活、文化や歴史の交流、児童の作品の交流など、無理のない範囲でのやりとりを続け、二十一世紀に活躍する児童が、それぞれの地域を知るとともに自分の地域の良さを知り、ふるさとを誇りに思う気持ちを育てていってくださることを心より願っています。

この度の訪問に関して、格別のご理解とご協力をいただきました地域やPTAの皆様にご心より感謝し御礼を申し上げます。



庄内由良を訪れて

六年 小室 健治

ぼくが庄内由良を訪れて一番印象に残ったのは、由良小学校の人達との交流です。その次に興味深く思ったのは、丹後由良と庄内由良を結ぶきつかけになつた話を聞いたことです。飛鳥時代に父と母を蘇我馬子に殺され、追われた蜂子皇子は丹後由良に逃げてきました。そして由良の人達を率いて舟で脱出しました。長い船旅の途中、岩に上からおどるようにして呼びかける八乙女を見つけ、そこに上陸すると、三本足の鳥が飛んできて、皇子が修験道を開いた出羽三山へ案内しました。そして、お供をして庄内へ行った人々は、なつかしい丹後由良のことを思い出して、ここを「由良」と名付けました。

ぼく達は遊覧船「皇子丸」に

乗せてもらい、皇子が上陸した岩場を見てきました。大きな岩とたくさんのおうくつにとでもびつくりしました。舟に乗っていると、今にも八乙女達が呼びかけているのが目の前にうかんできそうでした。

ここにたどり着いた時、蜂子皇子は何才だったのだろうか。どんな服そうをしていたのだろうか。その後どんな暮らしをしたのだろうか。平城京をなつかしく思い出していたのだろうか。丹後由良と庄内由良を結ぶかけ橋となつた蜂子皇子のことを、ぼくはもつと知りたいと思いました。



庄内由良に行つて

六年 磯田 洋平

ぼくが、庄内由良に行つて、印象に残ったことは、まず月山に登ったことです。バスで、月山の八合目まで行き、バスを降りると、とっても寒い。エアコンがとつてもきいている部屋のようにでした。そして、板の上を、歩いていくと、神社があり、山頂まであと四・五キロメートルと書いてあり、そこでストップすることにしました。そこから見る景色は見事で、とてもきれいでした。なぜかそこには風車がありその理由はわかりませんでした。

次に、羽黒山に行きました。羽黒山には、とても太く、大きなスギの木がありました。そして、と中、蜂子皇子の墓がありました。そして、太平洋戦争が終わつたとき、もう、このような戦争が二度とないことをねが

い、作つた球がありました。そして、日本で、三番目に大きい鐘がありました。その後、寺に入り、ごきとうをしてもらいました。なぜか、大きなすずを、背中にあてられ、ちよつとびつくりしました。

そして、その後「出羽三山歴史博物館」に入りました。中には、まず、仏像がとつてもたくさんありました、けいたいサイズの物からとても持てないような物まで種類も豊富でした。特に、時代がちがうと、体つきや顔が、全くちがっていました。中には、蜂子皇子の絵がありました。なるべく、神に近く書くために、まるで人でないような絵でした。これが、ぼくが、庄内由良に行つた時印象に残つたことです。

山形由良で一番印象に残ったこと

六年 中尾 優志

山形に行つて一番印象に残つ

たことは、庄内由良小学校の六年生との交流会です。その中でも方言クイズがおもしろかったです。「てしよう。」や、「んだ。」は何でしょう。という問題があり、すぐわかつたものもありましたが、難しいものもありました。方言つていろいろあつて、おもしろいと思いました。

そのあと、ぼくたちが、各班に一人ずつ入つて話し合いがありました。少しきんちようしました。けれど、すぐに慣れて、楽しく話せました。時々、何を言っているのかわからなかつたりしました。ぼくは「夏休みが短いかわりに、冬休みは長いのですか。」と、「冬休みの間、何を遊んでいるのですか。」と、質問しました。「冬休みは一週間長く、ゲームをして遊んでいることが多い。」と、答え

てくれました。

話し合いの後、給食の準備をしてくれました。一緒に食べてとてもおいしかったです。

給食時間が終わつたら、六年男子みんなでサッカーをやりました。思ったより強かったです。びつくりしました。三年生が途中で入つてきました。人数が多くなつたので、敵と味方がわからなくなりました。でも楽しい思い出になりました。

帰る時間になりました。みんな手をたたいて見送つてくれました。ぼくたちがバスに乗ると次は手をふつてくれました。そして由良小学校を出ました。

また会う機会があつたら、もつといっぱいしゃべつたり遊びたいです。行く前は、すごく遠いと思つていました。だけど、今は山形がとても近くに感じられます。また、山形に行きたいです。

山形の由良小学校で

六年 由利 加奈子

八月二十四日から二十七日ま

で由良小学校児童会の書記として山形県の庄内由良に行つて来ました。山形の由良で体験した事は、たくさんありますが、その中でも一番印象的だつた山形の由良小学校でのかんげい会の事を書きます。

私たちが由良小学校のグラウンドに出ると、先生方も、全校の人たちも拍手でむかえてくれました。私は、うれしい反面、きん張してきました。五・六年生がスクールバンドをえんそうしてくれている時は、ばく発しそうなぐらいきん張っていて、自己紹介の内容を忘れそうになりました。私は、少しでも落ち着こうと心の中でこんな事をいひ続けていました。それは、「全校生徒の数は私たちの由良

小学校より二人多いだけだ。大丈夫。」

会長、議長と終わり、いよいよ私の番です。ドキドキしながらマイクの前に立ちました。話し出すと、一気にきん張がほぐれました。無事、自己紹介が終わりました。達成感と満足感で拍手がとても大きな音に感じました。

山形の児童会からは、会長がかんげいのあいさつをしてくれました。両校のおみやげの交換では、山形らしい花笠の人形をいただきました。

その後の、交流会で友達が四人で、住所の交かんをしました。また、手紙を出そうと思ひます。よい思い出がたくさんできました。ありがとうございました。

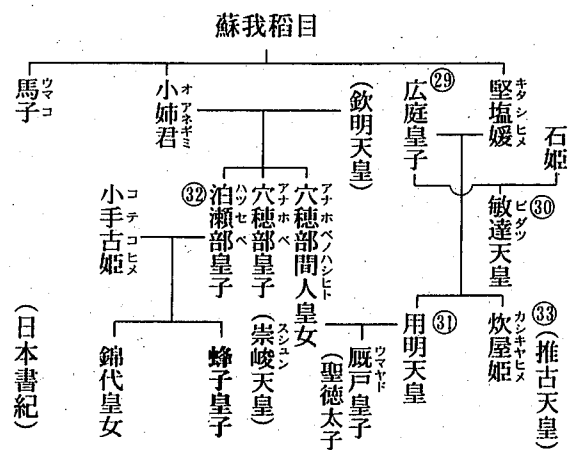
庄内由良と丹後由良との

今日までの交流経過

由良の歴史をさぐる会 四方 寿朗

昭和五十三年（一九七八）夏山形県鶴岡市の由良から、佐藤儀助氏が由良公民館（当時藤本秀雄館長）へ「庄内由良には蜂子皇子の伝説があるが、当地にも皇子に関する言い伝えがあるか」と尋ねてこられた。これが今日まで続いている両由良地区交流の第一歩であった。是非詳しい話をと問い合わせた処、同氏から次のようなお返事が届けられた。

蜂子皇子が丹後由良より庄内由良へ船でお出でになり「羽黒山湯殿山、月山の出羽三山を開山になった。これが修業の山、行の山、羽黒修験の道場として、日本全国に広く信仰を集め今日に至っている。
因果応報の道理を説く仏教が百済を経て日本に伝来したのは



(日本書紀)

欽明天皇の時代である。仏教を奉ずるか否かの争いは用明天皇が亡くなると、穴穂部皇子を推す排仏派の物部守屋と、泊瀬部皇子を推す崇仏派の厩戸皇子、蘇我馬子との間に争いが起こり守屋が謀殺され、泊瀬部皇子が即位し崇神天皇となった。その後帝は馬子の権力を押さえよう

としたが、逆に馬子の送った刺客に暗殺された。

次に即位した推古天皇も、皇子の意向を無視することが出来ず、蜂子皇子を謀反人と宣した。身の危険を感じた皇子は、ひそかに少数の近臣と共に都を逃れ、丹後由良の湊より丹後の舟方を水先にして船出し、庄内由良に上陸された。そして舟人はそのまゝ此の地に留まり、故国の名を取って由良の浦と名付けたと伝えられている。

又、皇子が由良の沖へさしかかると、陸から妙なる楽が聞こえると共に、美しい八人の乙女が優雅な舞で皇子を招き、上陸されると夢の中で「あなたの御座所はここではない。東の方の神山です」と告げた。そして出羽三山をお開きになった。それから此処を八乙女ヶ浦、八乙女洞窟と呼ぶようになった。

以上が佐藤儀助氏からの御返事の大要である。

次に現在までの両地区の交流経過を記す。

昭和53年 庄内由良の文化財愛好会々長佐藤儀助氏 単身丹後由良を訪問。

昭和55年 丹後由良「歴史をさぐる会」代表五名が 庄内由良を訪問し大歓迎を受ける。

昭和57年 庄内由良自治会長他 一名丹後由良を訪問。

昭和60年 庄内由良から十六名が丹後由良を訪問し「庄内由良、丹後由良友好の浜」盟約を締結し、今後の交流を約束する。

平成元年 両地区由良小学校児童相互の交流を始める。

平成4年 庄内由良小学校児童代表四名を含む訪問

11月 丹後由良へ。

平成5年 丹後由良小学校児童代表四名を含む訪問

8月 団、庄内由良へ。

平成8年 庄内由良訪問団21名
 8月 丹後由良へ。
 平成12年 丹後由良訪問団17名
 8月 庄内由良へ。

以上

二つの由良は同じ日本海沿岸に在って、不思議な程よく似ている。美しい自然の景観、地区の人口、戸数、海水浴場、温泉、国民宿舎、海にまつわる伝説など。

私が今度の訪問が三回目だと言った時、「庄内由良はそんなに良い処ですか？」と或る人に言われた。「その通り」私が心を引かれるのは庄内の人々の人柄だ。明るく気さくで、実に行動である。宗教や歴史を大切に、地区内での自治会や婦人会の活動も活発な様子。出羽三山という大きなすばらしい後だてがあり、観光事業も地についている。その上漁業も立派に両立させている。

私は何よりあの庄内由良の人々の元気が羨ましい。「いつそ小学校の修学旅行の行先を庄内

由良にしては」と水谷校長先生に進言した処、「少し遠過ぎるの」と口を濁された。将来の由良の進み方を考えるため、初老や還暦の記念旅行に、是非庄内由良をすすめたい。色々困難な問題はあるが、今後とも両地区の変わらぬ交流を末永く続けて行つて欲しい。そして宮津市と鶴岡市の友好に発展することを願つて止まない。

(十二・九・三)



庄内由良訪問使節団に

随行して

由良の歴史をさぐる会 大森章弘

八月二十五日早朝六時三十分分に鶴岡駅に着くや、神林自治会長はじめ九名のお出迎えを受ける。この日は小学校での歓迎行事・交流行事、鶴岡市役所表敬訪問、海上遊覧、白山島の見学等数々について、庄内由良の多数の皆様にお世話になる。

庄内由良は海水浴場で美しく、温泉もあり、又、小学校児童数や校舎の形まで丹後由良と似かよつている。歓迎行事の当初は双方の児童とも緊張し、固さが見られたが、丹後由良の紹介ビデオ放映の頃には打解けているようにみえる。庄内の児童が演奏した吹奏楽器は、高学年児童全員分、由良地区からの寄贈とのこと。丹後由良でも出来たらと思う。

海上遊覧は前回の訪問時(平

成五年)にもお世話になったが、今回もまた、すばらしい景観で迎えてくれる。今より一四〇七年の昔、崇峻天皇の第一皇子蜂子皇子は、父天皇が蘇我氏に殺され、身に危険が迫つたので、丹後の由良港から船出し、八人の乙女が手招きする八乙女浦に上陸し出羽三山(羽黒山、月山、湯殿山)を開いたといわれている。全く七年前と変わつていない庄内由良の景色である。

その夜は歓迎懇親会をもつていただき四十数名の多数に大歓迎を受ける。

翌二十六日は私にとつて初めての月山を始め、羽黒山参拝等と精進料理、善宝寺参拝と又々多くの方々にお世話になる。月山に向かう朝、鳥海山の頂らしき景観がのぞき、少し満足す

る。朱塗りの大鳥居や原生林が迎えてくれる。月山登山の駐車場に降り立つと下界とは一転し、風のせいかな、はなはだ寒い。月山中之宮まで海拔一四〇メートル附近につらなる湿原が一面に広がり、水芭蕉の歌を口ずさみながら散策を楽しむ。雲がかかっていた頂が中之宮参拝と同時に晴れる。頂上へはここから二・六キロ。またいつの日か参拝することができらるだろうか。

羽黒山を案内していただき、先ず目についたのは、皇子の墓所に菊の御紋が二つ目立つ。墓のしるしは杉の大木であろうか。宮内庁もよくぞ認めたものと思う。これも幾多の功徳を残され能除太子と称された皇子の修験道力かと思ふ。

昼頃より雨となり予定を変更し、善玉寺、龍王神社に参拝する。二十七日はいよいよ帰路につく日。鶴岡駅においても神林会長はじめ十名程の方々に温かく見

送つていただく。兄弟のような温かい厚意を感じた見送りである。申し訳ない思いで見送られる。

さて、由良の歴史をさぐる会員七名はその後新潟駅で下車し新潟市内見学に向う。昨年さぐる会佐渡旅行で、ほんの二時間ほど、時間待ちした新潟市は、又違った味わいのあるそして美しい都市である。時間のあらかぎり、みんなの体力と相談しながら、ゆつくり見学する。

ところで帰路の車中で庄内由良訪問について思ったことを書いてみる。

それは庄内由良の非常に多くの皆様に着いてから帰るまで、温かく、人情厚い人柄による親切なもてなしを受けてなにかうれしい、ありがたい気持ちでいっぱいである。次は丹後由良に来ていただくことになる。さて、自分はその際このようなおもてなしができるか心配である。

蜂子皇子の里といわれる丹後由良からの私達を迎えるに、兄

弟のような親しみを感じてもらっているのだろうか、と今回も思う。

「友好の浜」盟約にうたわれた「文化教育の交流を緊密にして友好に努力する事を誓い、ここに盟約を宣言する。」が充分達成されているこの良好な友好状態を継続し、発展させるには、双方の地区の方々の自覚が必要である。今の友好関係を大切に、継続させるよう努力しなければならぬ。しかし、三年毎に交互訪問し合うことが出来ない場合は、訪問が今回のように四年目、五年目になつてもいたしかたない。無理のないように交互訪問や小学校間の作品交換などの間接交流が出来ればよい。双方の由良とも無理のないように訪問を考えて、友好親善を図ればよいと思う。

今回の訪問に際しては、丹後由良自治連を始め訪問団の皆様には大変お世話になり、紙面にてお礼を申し上げます。



山形 新 報

2つの「由良小」仲良く

鶴岡 京都の訪問団を歓迎

同じ名前の学校同士、仲良くしようね。鶴岡市の

由良小(青木勝校長、児童九十六人)に二十五日、京都府宮津市の由良小から六年度の児童らが訪れ、ビデオレターや方言ゲームなど



で交流した。

出羽三山の開祖、蜂子屋(はちのこのおつじ)は約千四百年前、京都(丹後)の由良から舟に乗り、鶴岡の由良にたどり着いたとの伝説が残されている。両地区の自治会は

同じ地名を縁に一九八五(昭和六十)年、「友好協約を締結。小京都・由良小の児童四人(右奥)と鶴岡・由良小の児童たちが一緒に庄内の方言ゲームを楽しんだ

学校同士の交流は九二年から行われており、京都・由良小の児童が鶴岡を訪ねるのは九三年以来、二回目となる。訪問団は由良小児童会役員の小室健治君、磯田洋平君、中尾優志君、由利加奈子さんの四人と水谷洋子校長、自治会役員ら十七人。この日は、由良小の校庭で、鶴岡の子供たちがスクールバンドで歓迎。京都の子供たちはビデオレターで学校の生活を紹介した。六年生の教室に移動し、庄内の方言クイズに挑戦。血を意味する「てしよ」、兄の意味の「おんちゃん」などが出題され、京都の子供たちは首をかしげながら回答していた。

毎日新聞

山形県

鶴岡

児童ら17人が訪問

宮津

同じ地名縁で 住民交流22年

由良の

友好

これからも

宮津市山良、市立山良小(水谷洋子校長、94人)関係が続いている。これまで、いずれも3度ずつ訪問。今回の宮津市からの訪問団(17人)は、由良自治連合会や地元市立山良小学校(96人)を郷土吏クループ「由良の歴史をさぐる会」とともに、由良小学校から水谷校長や、児童会長の小室健治君(12)ら児童会役員6年生4

人らが参加した。由良をもとに名付けられた、との言い伝えをきっかけに、1978年、同校は、丹後由良海水浴場や山良神社、山椒大夫の碑などの風景を撮影したビデオテープなどをターゲット。85年には、両市の郷土史家や自治会関係者らが参。25日は、既に2学期が始まっている鶴岡市立山良小学校で、「庄内由良・丹後由良友好の浜宣言」を締結。両由良小学校も絵画作品や、入学、卒業式での祝電の交換など、友好郷する予定。【瓜生 貴二】

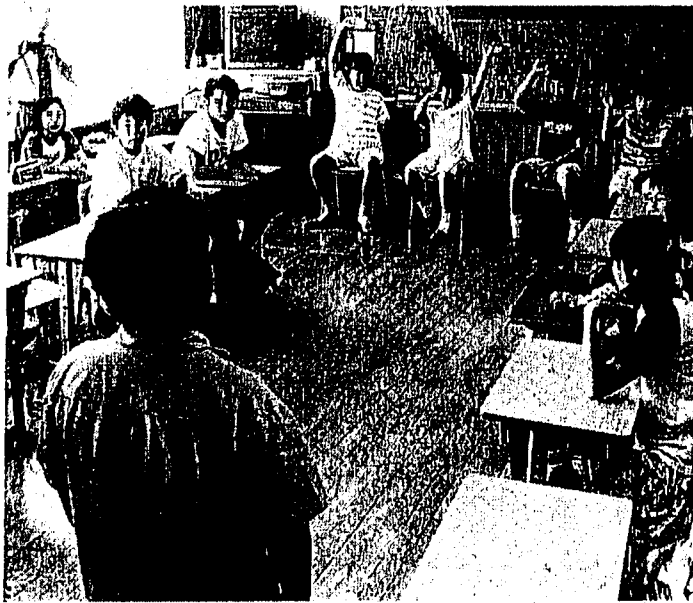
友情のかけ橋いつまでも

丹後 — 由良っ子同士 — 庄内

宮津市(京都)の児童が来鶴

方言クイズで文化紹介

出羽三山の閉祖・蜂子皇子(はちこのおつじ)の伝説が縁で鶴岡市山良と交流を続けている京都府宮津市由良の訪問団一行が二十五日、鶴岡を訪れ、由良小学校(青木勝校長、児童九十人)の歓迎会では子供同士が交流を深めた。



交流授業で庄内・由良小の方言クイズに答える丹後・由良の子供たち(右奥)

二つの由良は、蜂子皇子が京都(丹後)の由良から舟に乗り、庄内・由良にたどり着いたという伝説を縁に、昭和五十五年ごろから交流を始めた。鶴岡の郷土史研究家が歴史調査のため丹後・由良を訪れたのをきっかけに、六十年十月には「友好の浜」を宣言。互いに「庄内の由良」「丹後の由良」と呼び合う仲になっている。

相互訪問は、平成五年八月に丹後・由良の訪問団が初めて庄内を訪れてから本格的に始まった。以後、三年おきに相互訪問することにし、八年には庄内の訪問団が丹後を訪れた。丹後から二回目の訪問となる今回は、当初は昨年に受け入れ予定だったが、庄内・由良小の創立五十周年記念事業などが重なったため今年になった。

一行は、宮津市自治連合会長の森秀明氏を団長、丹後・由良小の水谷洋子校長と六年生の代表児童四人、PTA代表、自治会関係者、地元歴史を語る会のメンバーら合わせて十七人。二十四日夕に鶴岡を出発し、

この日早朝に鶴岡に着いた。由良小グラウンドで行われた歓迎会では全寮制の訪問団を拍手で迎えた。庄内・由良小の佐藤春樹君(二六年生)が「丹後の由良のみなさんが来るのをみんな楽しんでいました。この由良でいい思い出を作ってください」と歓迎の言葉を述べ、五、六年生のスクールバンドが演奏を披露した。

大森団長は「お互いの知らないことを分かり合う機会にしたい」とあいさつ。丹後・由良小の子供たちは一人ずつ自己紹介し、「山と海があり丹後の由良と似ていてほっとした。仲良くなって大人になっても交流していきたい」「庄内の由良のことをたくさん勉強し、帰ってから丹後のみんなに教えてあげたい」と語った。

その後、訪問団の児童四人は六年生の教室で交流授業に参加。庄内・由良小の児童たちが用意した「てしよ(小皿)」の意味は「などの方言クイズで互いの文化を教え合っていた。

同日夜は地元住民との交流会。二十六日は羽黒山などを訪れ、二十七日帰郷。

案内板、説明板の新設、建替えについて

由良の歴史をさぐる会

この度八月に三つの看板、案内板を設置しました。

一つは脇公園にある「澤井市造氏胸像」についての説明案内板を設置しました。縦九十センチ、横百十五センチ（高さ七十センチ）の片面に説明があります。どのような功績の人かはもちろん、名前も知らない人が多くということでも設置しました。

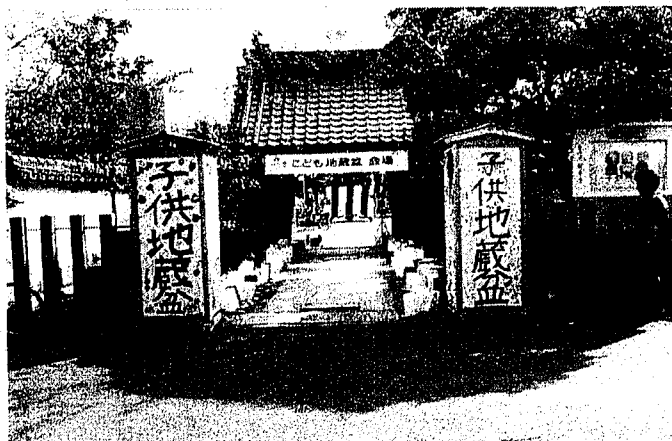
二つは旧街道の入口岩上様の敷地内の「七曲八峠」・「山椒太夫首挽松」の案内板です。以前木製の案内板がありましたが、壊れたので建替えました。縦五十七センチ、横九十一センチ、鉄骨柱二百センチです。

三つは山下様敷地内に「山椒太夫屋敷跡」という両面型の看板です。縦三百センチ、横八十五センチ、鉄骨柱四百四十センチです。

チです。

いずれも腐食しにくい材料を考えていただきました。施工業者は、浜野路出身の浅野友司氏（野田川町幾地在住、五十八歳）です。献身的に大変お世話いただきました。

この経費につきましては、昨年大変お世話いただきました「山椒太夫考」一人芝居の基金を使用させていただきま
右のとおりご報告申し上げます。



あいさつ運動標語

- あいさつは 私とあなたのドッキング
- あいさつが飛びかう町に明るい未来
- こんにちは!! つてみんなの笑顔に合いたいな
- あいさつで知らない人と 知り合いに
- あいさつは 今日も一日 元気の素
- いいかぜは あいさつにのって やってくる

由良あいさつ運動推進協議会

編集後記

記録的な思わぬ猛暑、渇水による被害も、水稲の収穫数一〇二（やゝ良）のようですが、由良特産のみかん等の果樹は、大丈夫だったのでしょうか。

原因は、地球温暖化が関係しているのでしょうか。

八月二十日、世話人さん達のご努力により由良地区の子供達参加による、地藏盆がお寺境内で開催されました。

公民館も十四日の盆踊りを地藏盆に合わせて行いました。

遅くまで多くの人で賑やかな地藏盆と盆踊りの夜でした。

去る、八月二十四日より、由良自治連合会会長を団長とした、訪問団が、蜂子皇子（出羽三山開祖）ゆかりの地として友好を重ねている、庄内由良を訪れ、更なる絆を深めてこられました。

早速、公民館だよりに投稿をお願いしましたところ、心よく多くの方から原稿を戴くことが出来、ここに、掲載させていただきました。

紙面をお借りして、厚く御礼申し上げます。

季節も十月、祭りも過ぎると、駅道の櫻の葉が風に舞い、段々と寒さが身にしむ様になって参ります。風邪など引かれないようお元気で過ごしてください。

酒田



昭和48年高潮被害による護岸工事

R100
古紙配合率100%紙を使用しています。

